

高密度播種苗栽培では側条施肥によって 初期生育を確保できる

福島県農業総合センター 作物園芸部 稲作科

1 部門名

水稻－水稻－施肥法

2 担当者名

鈴木寛人

3 要旨

本県では育苗資材費の低減や移植作業の省力化を目的とし水稻の高密度播種苗栽培（播種量250～300g/箱）の導入が進んでいるが、苗が早く老化しやすいことから、初期生育の確保が課題となっている。「天のつぶ」について側条施肥及び全層施肥での生育を比較したところ、高密度播種苗栽培では側条施肥を行うと初期生育が促進されることが明らかとなった。

- (1) 側条施肥すると、初期分げつが多かった（図1）。
- (2) 側条施肥すると、穂数・籾数・精玄米重が多くなった（表1）。

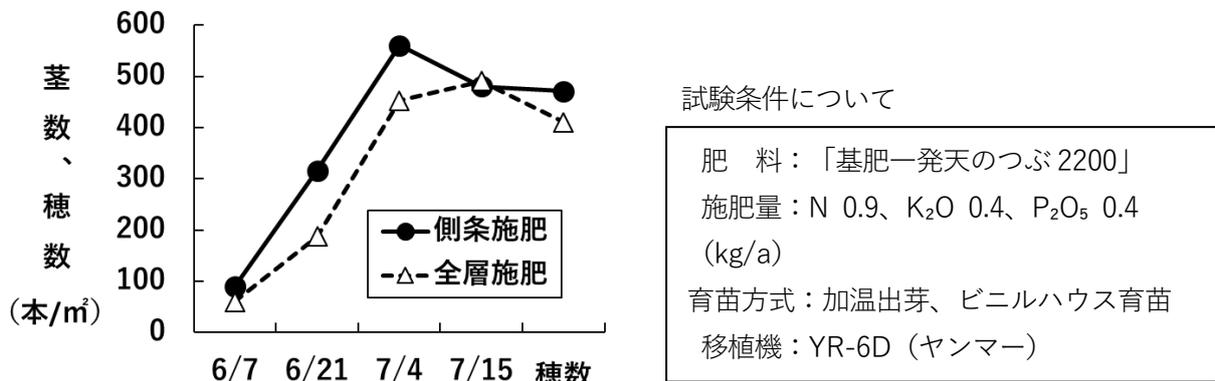


図1 茎数の推移と穂数

※播種量：乾籾250g/箱（高密度播種苗）

表1 収量、収量構成要素など（※播種量：乾籾250g/箱、高密度播種苗）

施肥法	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	穂数 (本/m ²)	m ² 籾数 (百粒)	千粒重 (g)	登熟歩合 (%)	精玄米重 (kg/a)
側条施肥	8/12	9/27	471	350	22.8	87.8	70.1
全層施肥	8/14	9/28	411	338	22.4	87.8	66.4

注) 精玄米重は篩目1.8mm以上で算出し、水分15%換算値とした。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和4～5年度
- (2) 研究課題名 作物、野菜、花きの有望系統・新品種の栽培技術の確立
〔新稲作研究会委託試験〕

5 主な参考文献・資料

なし